

2026～2035年

次期長期ビジョン「TryAngle 2035」

DAIKENグループでは、「GP25」での変革を引き継ぎ、2026年度から2035年度までの10年間を見据えた、新たな長期ビジョン「TryAngle 2035」を策定しました。創立以来大切にしてきたサステナビリティ（環境への貢献）とウェルビーイング[※]（快適性の向上）を事業の軸とし、当社に関わるあらゆる人に『ずっとここちいいね』を届ける企業となるための指針を定めています。

※ウェルビーイング：身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念



「TryAngle 2035」に込めた想い

Try 快適向上・サステナブル社会実現に「トライ・挑戦」する

Angle 成長に向けた新たな視点・方向性、右肩上がり



「TryAngle 2035」で目指す姿

あらゆる場所で、あらゆる人に『ずっとここちいいね』を提供する企業へ。DAIKENから社会へ、いい循環＝「Well-Cycle[※]」を届けます。

- ※Well-Cycle: ①サステナブルなモノづくりによる資源循環
 ②ウェルビーイングにつながる五感の快適性
 ③共感と称賛による良い相互作用
 3つの意味を含んだ好循環を総称した当社独自の用語



「TryAngle 2035」で目指す姿 『ずっとここちいいね』の実現へ

「TryAngle 2035」策定の経緯

GP25の間に起きた変化

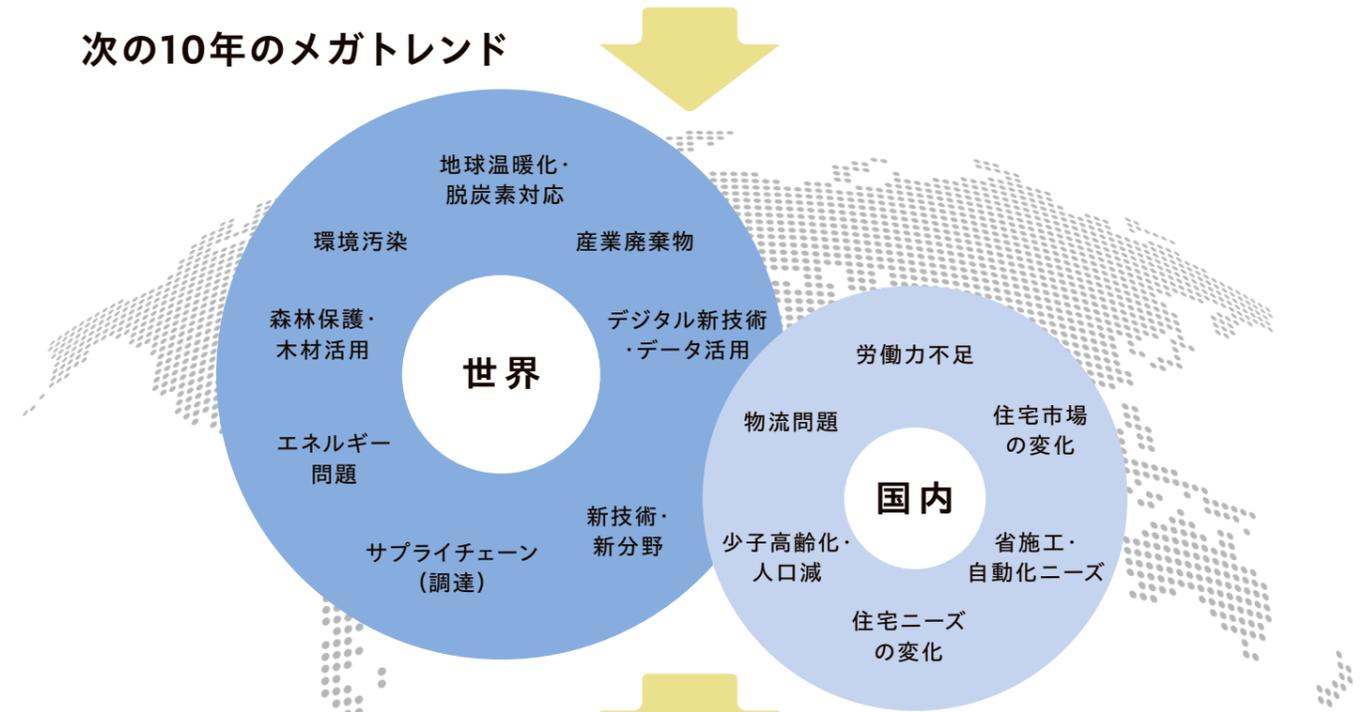
【外部環境】

- パリ協定によるCO₂削減義務
- 長時間労働の規制強化
- 消費税増税
- ウッドショック
- 新型コロナウイルスによる生活様式の激変
- 地政学リスクの増大
- 世界的インフレに伴う大幅な賃上げ

【内部環境】

- 海外市場への積極的な展開（北米市場への注力）
- 公共・商業建築分野の拡大
- 働き方改革の推進（PC稼働時間の制限、男性育休取得推進、在宅勤務・時差通勤制度の整備など）
- 伊藤忠商事(株)完全子会社化に伴う上場廃止

次の10年のメガトレンド



リスク

- 新設住宅着工の激減
- 物流費の高騰
- 業界再編
- 経済停滞+インフレ進行
- 天然資源枯渇
- 人材獲得競争激化

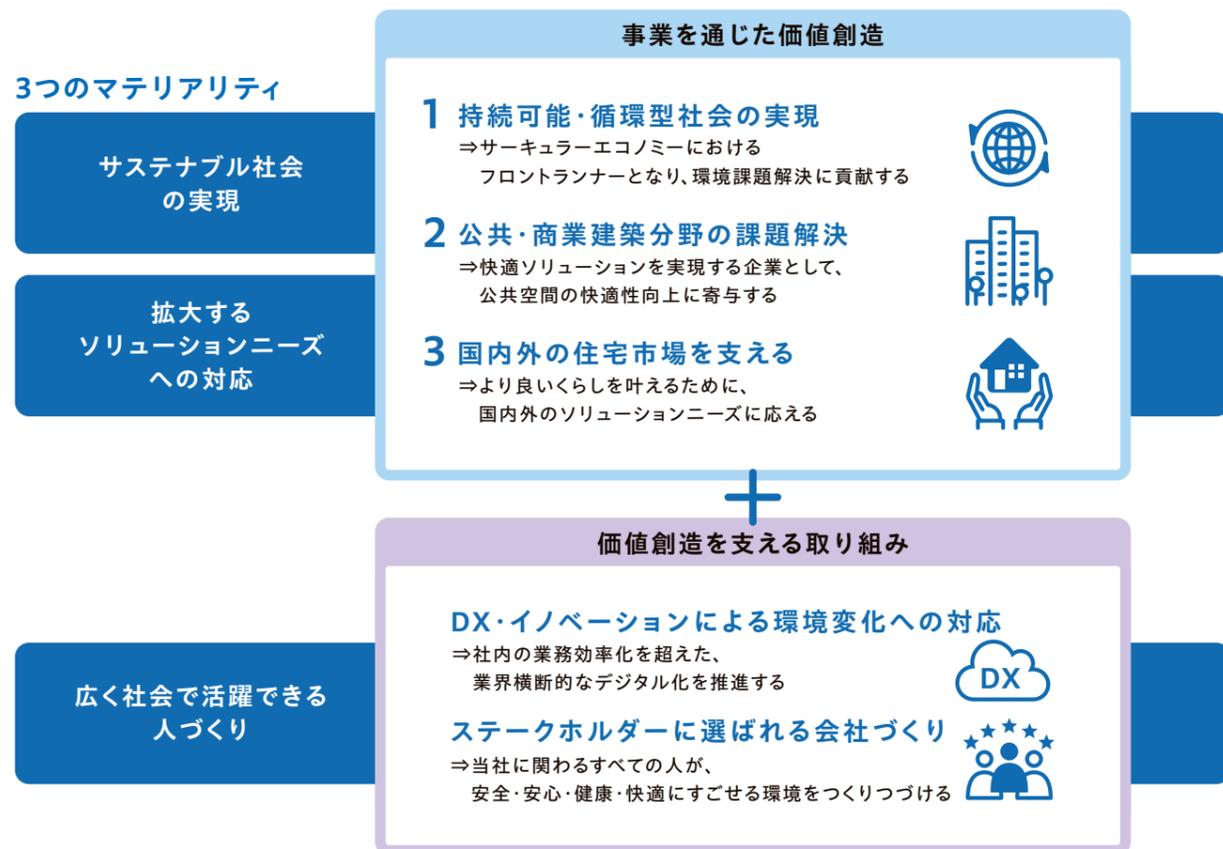
機会

- サステナブル社会貢献につながる商機拡大
- 新技術導入による生産性向上
- 海外における素材・建材事業拡大
- 環境規制を先取りした展開
- 社会課題解決による新市場創造
- ウェルビーイングニーズの増加

11ページにつづく

次期長期ビジョン「TryAngle 2035」

3つのマテリアリティと対応方針



10年後のDAIKEN

「GP25」ではこれまでの「住宅用建材メーカー」という姿から、国内の住宅市場にとどまらず、公共・商業建築分野や海外にも積極的に展開する「建築資材の総合企業」へと成長し、輝くことを、ありたい姿・企業像として掲げてきました。「TryAngle 2035」では、2035年にDAIKENがどのような企業になりたいのか、3つの視点で将来像を描きました。

サステナブル素材において、グローバルに抜きんできた影響力を獲得している

- 創業時から培ってきた「素材」の力を、国内外に広く展開していく
- 安定調達・安定供給の実現により、バリューチェーンから信頼される企業となる

生活空間をアップグレードし、選ばれる「新スタンダード」をつくっている

- 「音・光・温度・湿度・におい」など、五感に訴える価値で生活を支えていく
- 住宅のみならず、公共・商業建築分野においても存在感を示す

社会課題解決に向け、共創を通じてさまざまな新規領域への挑戦・進出が進んでいる

- 社会課題解決のため、積極的な共創に取り組む

ありたい姿達成に向けた4つの鍵

10年後に当社が目指す企業像を叶えるため、4つの重要な要素=鍵を定めました。この鍵を磨き、強みとしていくことで、持続的に成長し、社会に貢献しつづける企業となります。



「DAIKENサステナビリティ・アクションプラン2035」

次期長期ビジョン「TryAngle 2035」の推進ドライバーとして「DAIKENサステナビリティ・アクションプラン2035」を策定します。マテリアリティであるサステナブル社会の実現（持続可能・循環型社会の実現）や広く社会で活躍できる人づくり（ステークホルダーに選ばれる会社づくり）に貢献するための成果目標を「環境」と「ヒト」の二軸で設定しました。

